

教育職員評価指標の標準化

～研究分野を超えた公平な評価を目指して～

理事・副学長(国際・評価担当) 横野 照尚
副学長(入試・広報担当)・IR室長 安永 卓生



教育職員評価



研究力の評価とは？



社会的背景

EBPM (Evidence-Based Policy Making)

政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする
こと。

(内閣府)

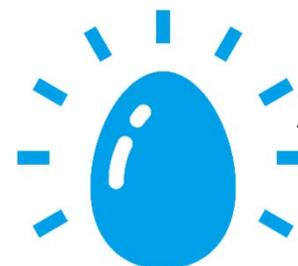
科学技術基本法を改正へ

人文・社会科学も加える方針

政府の総合科学技術・イノベーション会議は17日の有識者議員による会合で、1995年に成立した科学技術基本法を改正する方針を打ち出した。基本法で科学技術の振興施策の対象外となってきた人文・社会科学を加えるため、具体的な検討作業に入る。

(毎日新聞2019年1月17日)

研究分野を超えた公平で
客観的な評価が必要！



九州工業大学IR室が開発

SURE -Metrix



— 研究分野特性を考慮した正規化指標群 —

SURE – Metrix

(Standardized Unbiased Research Evaluation)

正規化の対象となる指標（例）

- 論文数 : 開発済み
- 被引用数 : 開発途中
- 外部資金の獲得額 : 開発予定

特徴

- マンパワー（投じた労力）という概念を導入



— 正規化指標開発の背景 —

主な問題点

- 分野によって論文の出易さが異なる
- 分野によって論文の平均的な共著者数が異なる
- 分野によって論文の平均的な引用回数が異なる
- 分野によって研究費の必要額が異なる

etc.



分野を超えて研究力を比較することが困難



教員評価や大学ベンチマーキングの煩雑化



— 正規化論文数の概要 —

- ① 分野jの平均的な論文の出易さ

$$P_j = \frac{\text{分野jの全論文数}}{\text{分野jへの全投入マンパワー}}$$

- ② 教員iの分野jにおける正規化論文数

$$\gamma_{ij} = \frac{\text{教員iの分野jにおける論文数}}{P_j}$$

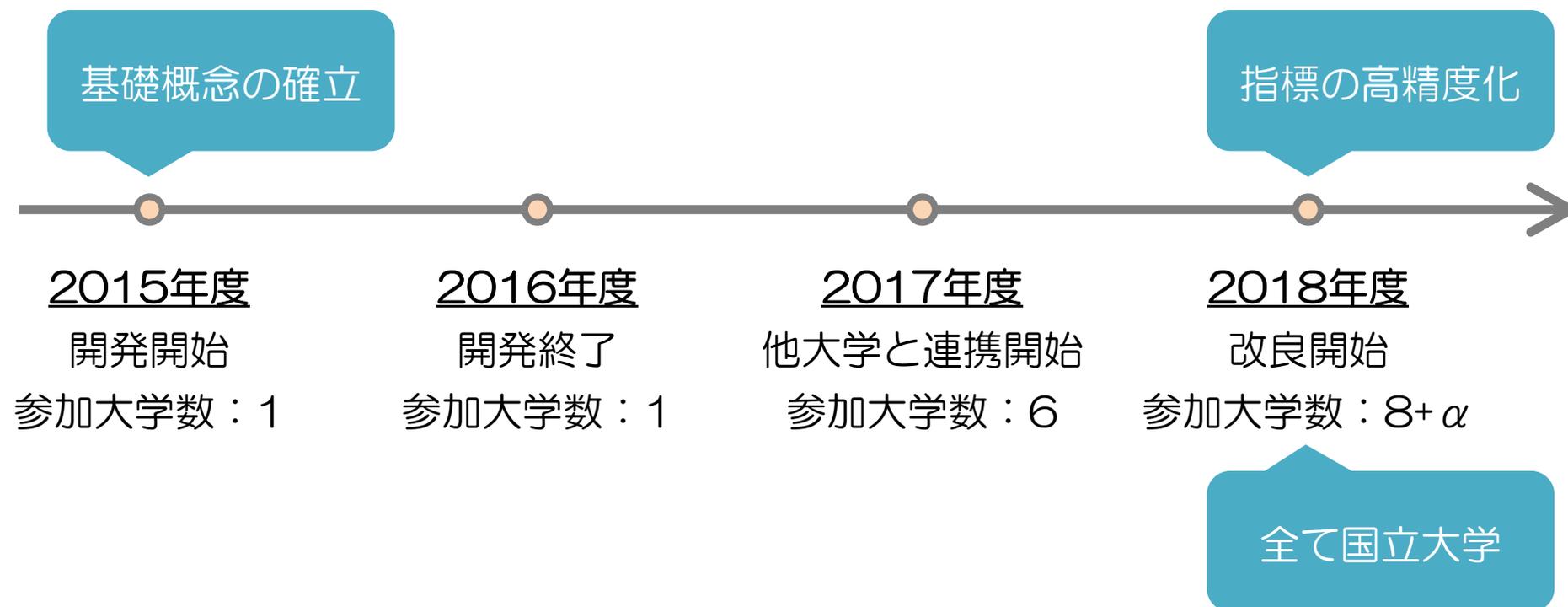
- ③ 教員iの正規化論文数

$$\gamma_{i\cdot} = \gamma_{ij} \text{の全分野合計}$$

正規化論文数の平均は1
(1を上回ると、平均よりも論文を多く発表していると解釈)



— 開発状況 —



— 今後の展開 —

本指標に興味のある大学に対して活用支援を行う予定
(現在3大学が活用を検討中)